

科目名	病院薬剤学特論	選択	1単位
-----	---------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎教授 渡邊 真知子 教授 安野 伸浩、教授 渡辺 茂和、教授 鈴木 義彦、講師 渡部 多真紀						
開講年度	2020年度	配当年次	1～4年	配当学期	前期	授業方法	講義

授業の概要	医療現場では病態や体質が異なる患者を画一的に取り扱うのではなく、個々の患者に即した治療法への志向が高まっている。本講義では、臨床上の患者に係る問題点を解決するために新たな医薬品情報を作りだすための研究や、エビデンスに基いた治療法を提案できるような研究について、それらの内容と手法を概説する。
授業の到達目標	病院内で問題となる臨床上のテーマに対して、薬学的アプローチによる科学的な解決手法について説明できる。

授業計画	回数	担当者	行動目標
	1	渡辺 茂和 教授	喘息患者への薬物治療において正しい薬物治療と副作用について理解し、指導方法を説明できる。
	2	渡辺 茂和 教授	喘息患者への薬物治療において正しい薬物治療と副作用について理解し、指導方法を説明できる。
	3	鈴木 義彦 教授	医薬品情報の評価と活用、伝達方法等について説明できる。
	4	鈴木 義彦 教授	病院薬剤師におけるRMPとの関わりについて説明できる。
	5	渡邊 真知子 教授	医療現場における薬剤経済学的分析の有用性を説明できる。
	6	渡邊 真知子 教授	急性薬毒物中毒診療におけるエビデンス構築の手法を説明できる。
	7	安野 伸浩 教授	医療現場での問題点を抽出し、適切な情報提供について説明できる。
	8	渡部 多真紀 講師	臨床における医薬品開発（治験）への薬剤師の関わり方について理解した上で、臨床現場において日常行われている業務からエビデンスとして確立されていない様々な疑問や問題点を抽出する。この疑問や問題点を解決していくための研究計画の概要を立てる事が出来る。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	医療現場において薬剤師が関わり解決すべき問題点について、書籍、インターネット等で情報を収集しておくこと。 事前学修：前回の授業内容（プリント等）を復習し、用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業中の疑問点をまとめ、プリント等を利用し、次回の授業までに解決しておくこと。 当該期間に30時間程度の予復習が必要となる。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価の方法および基準	出席50%、課題レポートまたは筆記・論述試験で50%で評価する。
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。